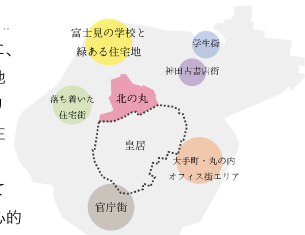
○ 提案の方向性

■ 北の丸公園の位置づけ



北の丸公園は皇居とともに、都心部において貴重な緑地であり、都心におけるグリーンインフラを支える存在である。
また、様々な地域に面しており公園機能としても中心的存在であるといえる。観光客や住民、近隣で働く人々など、多様な属性の人々の受け皿となるような場所になりうる。また、JR 飯田橋駅、地下鉄九段下駅・竹橋駅など複数の交通拠点が近隣にあり、広域的なアクセス性も非常に高い。なお日本武道館は 2020 年東京オリンピック・パラリンピックの会場に決定しており、今後、外国人をはじめとした観光客が増加していくことが想定される。

■ 地域資源の点在と回遊性

資源マップ

飯田橋エリア、北の丸公園周辺には、歴史的資源や豊かな自然環境といった資源が多く点在しているが、それらは現在ネットワーク化されておらず、地域全体の回遊性はそれほど高くない。北の丸周辺地区では公園自体の資源性に加え、園周辺には、美術館等の文化施設や、緑道などのレクリエーション的な資源が点在しているものの、北の丸全体としての回遊性や、魅力は見出しづらい状況となっている。
また、富士見台エリアでは東京大神宮に加え、JR・東京メトロ・都営地下鉄の計 5 路線が乗り入れする地域最大の交通拠点である飯田橋駅が存在するが、北の丸エリアとの回遊性には乏しい状況である。

■ 人とまちをつなげる

今後、千代田区は居住人口の更なる増加が見込まれる地区であり、業務地としても日本有数の地区である。その一方、高齢化が徐々に進行していることや、マンション居住者の増加によるコミュニティの脆弱さが課題となっていることなど、ハード・ソフト両面の整備が必要な状況である。

○ コンセプト：ひとのあつまる結節点をデザインし、全体の回遊性を高める

多彩な周辺資源と連動しながら、回遊性を高め地域と地域をつなげるような、様々な人々の活動をゆるやかに受け止める都市空間の構築を目指す。その中では、ハード整備と並行して、人々がまちを使い、まちで自らやコミュニティを育めるようなソフト整備も含めた暮らしやすい都市づくりを進める。
地区ごとの性格の違いから富士見台エリアと北の丸エリアで異なる整備方針を立てる。その上で、靖国通り交差点周辺 (田安門前) エリアを 2 地区を結ぶ重要な結節点として重点的に整備を行う。

■ 富士見台エリア：誰もが使いやすいみちとまちづくり

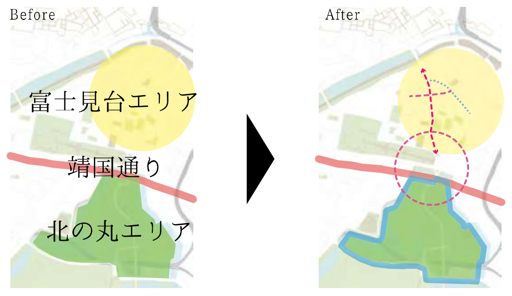
軸として早稲田通りをシェアドスペースを実施しつつ、早稲田通りから伸びるみち性格の異なる「よこみち」(＝早稲田通りに対して交わる道) として、まちと一体的に育てて、人の流れと場所それぞれにあった人のたまりを創出する。

■ 靖国通り・田安門前エリア：アクセス性の高い憩いの場

富士見台地区と北の丸地区の結節点として、人の流れをつくり、同時に人の居場所となるエリア。歩道橋の整備で両地区の間に賑わいを連続させ、靖国通り沿いに線的に人のたまり場となる街路とオープンスペース、空間を連続させる。

■ 北の丸公園周辺エリア：ゲート性を高めるカオづくり

環状の北の丸公園周辺のみちや緑道を整備し、北の丸公園も含めた面的な魅力を向上させる。水辺空間の再編など自然を育みながら四季折々の魅力を向上させる。また、幹線道路に囲まれウラになっていた南側にも、公園のカオとなるアクセスポイントを整備することで、公園を含めたエリア全体の魅力を向上させることで回遊性のあるエリアになる。

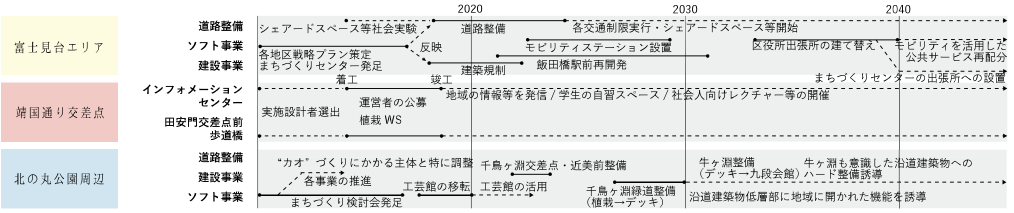


DESIGN CONCEPT

SCALE	CONCEPT	PROJECT
線 富士見台エリア	人の流れとたまりを創出し、活性化する	早稲田通りを中心とした「よこみち」を含む道の性格付けとストリートマネジメント
点 靖国通り交差点	２つのエリアをつなぐ交差点のデザイン	人の流れをスムーズにする陸橋のデザインと人のたまり場となる消防署跡地活用
環 北の丸公園周辺	ひとの視線やアクティビティをやわらかく受け入れるゲートのデザインとマネジメント	千鳥ヶ淵・外濠の水辺活用とパークマネジメント事業

○ 事業計画・年度計画

オリンピック・パラリンピックが開催される 2020 年に向けて北の丸公園周辺の整備を進め、牛ヶ淵ウォーターサイドウォークなど複数の主体の調整が必要となるものに関しては、検討会を中心に長期的な視座で調整を進める。また、富士見台エリアに関しては、みちごとの戦略プランに基づき整備を段階的に進める一方、エリア全体では想定される広域的な課題等に対して短期・長期の両面から事業を行っていく。



PROJECT 001：田安門前交差点整備による地域間の連続性創出

■ 富士見台地区と北の丸公園地区をつなげる結節点のデザイン

靖国通りで分断されている富士見台地区と北の丸公園地区を結ぶエリアを再整備する。地域と地域、人と人をつなぐ結節点として、多様な人々のアクティビティを受け止める場を整備し、靖国通りや北の丸公園、その回遊路、飯田橋エリアからの人々の流れを受け止め、流れを作るような結節点のデザインを行う。全体方針としては 1. 周辺環境と連動して通行者にとって心地よい環境をつくる。2. 多様な人々、多様な交通の結節点としてふと足を止め、人やコト、モノと出会う場所をつくる。3. 日本武道館は 2020 年東京オリンピック・パラリンピックの会場に決定しており、今後、外国人をはじめとした観光客が訪れることから、情報発信の拠点としての役割も担う。

■ 田安門交差点歩道橋の現状と課題

現状、飯田橋地区と北の丸公園地区の境界には、 6 車線を有する幅員約 39m の靖国通りが走っており、人々の流れた賑わいは一時分断されてしまっている。交差点には田安門前歩道橋がかけられているが、視認性の低さ、イベント時のキャパシティ不足、バリアフリーへの対応不足、老朽化といった課題を抱えている。また、この地域には多数の教育機関が集約し、文教地区に指定されていることから、日常的に多くの子どもが通学に利用しており、親しみをもって楽しく安全に移動できるための交通環境を考える必要もある。

■ 田安門交差点整備のための二つの整備方針

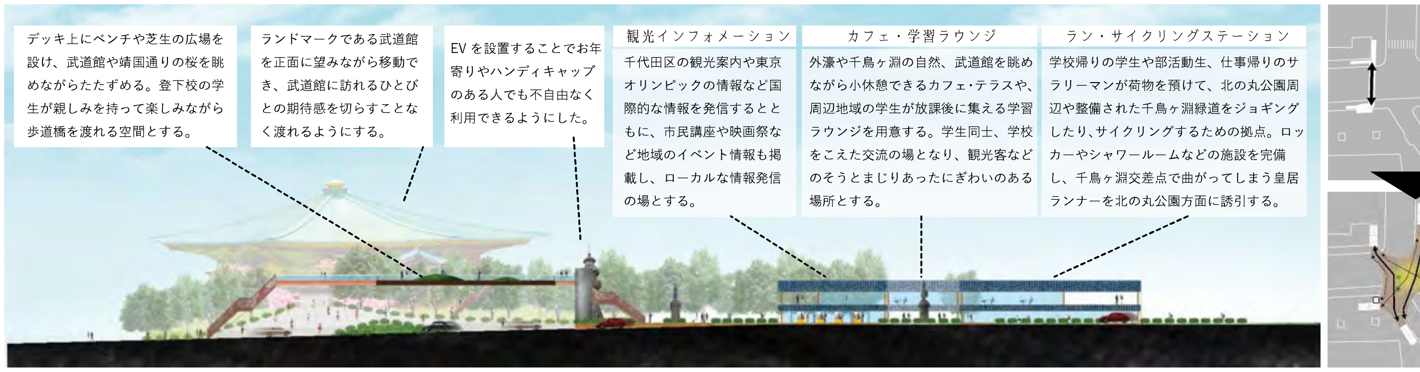
田安門交差点前歩道橋

整備方針　既存の歩道橋を新たにデッキ化して架けかえ、富士見台地区と北の丸公園の賑わいを連続させる。単一的だった人の流れを解きほぐし、観光客から登下校の学生までそれぞれが親しみを持って楽しく移動できるような多面的な人の流れを生み出す。歩くことを楽しみながら結節点としての魅力を教授し、眺める・憩う・佇むといったアクティビティがおこることで二地区の賑わいを融和させる。

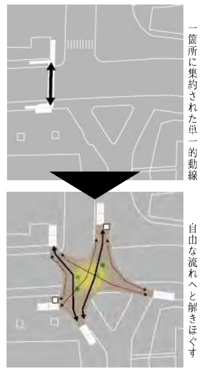
消防署跡地利活用：北の丸インフォメーションセンター

整備方針　北の丸公園から区立九段坂公園、現在未利用地の消防署跡地を一体的に整備し、人が溜まることのできる居場所をつくる。北の丸公園から千鳥ヶ淵緑道まで連続させることで、今まで途切れていた動線を結びつけ、ひとの流れをつくることにより公園内外からの活動の滲み出しを生み出す。様々な居場所作りがおりかさなることでさらなる賑わいがうまれ、結節点としての魅力を増大させていく。

■ 具体的提案



■ 田安門交差点 diagram



PROJECT 002：富士見台地区「みちまち」マネジメント

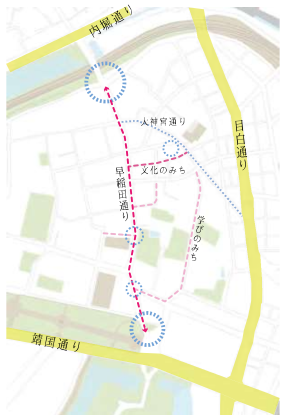
北の丸公園周辺と飯田橋駅への結ぶ軸となる早稲田通りの魅力向上と早稲田通りに接続する性格の異なる「よこみち」の整備によって観光客や日常的な周辺利用者にとっての魅力を高める。また、早稲田通りの街路樹を軸として、北の丸・外濠の間をつなげる広域な緑のネットワークを形成する。

歩行者・スローモビリティ中心のみち

早稲田通りシェアードスペース、歩行者道路、スローモビリティの充実 (ちよくる・ベロタクシー) などで、自動車の通過交通を地域外へと誘導し、富士見台地区を歩行者中心のまちとして計画する。

みちと広場のネットワーク形成

早稲田通りシェアードスペースを軸として、隣接地域との結節点に広場を整備し、地域内においては、早稲田通りとよこみちの結節点や、「よこみち」同士の結節点、重要拠点に小広場を整備する。



■ 人とまちを育む「みちまち」マネジメントと沿道一体型整備

軸となる早稲田通りとそれに交差する「よこみち」では、それぞれの性格に応じて、個別の戦略プランを考える。プラン作成はみちごとに立ち上げた利害関係者と住民によるマネジメント組織が行い、主体的に整備からその後の活用まで運用を行っていく。戦略プランでは、性格に応じたみちのデザインに加え、沿道敷地に対する建築・機能誘導などの「みち」「まち」と沿道の一体的な整備を展開する。

「富士見台まちづくりセンター」設立
地主・利権者／行政／教育機関／住民
→ 富士見台まちづくりセンター
『富士見台みちまちづくり方針』の策定

みちごとにマネジメント組織設立
富士見台まちづくりセンター
早稲田通り ― 大神宮通り ― 文化のみち ― 学びのみち
みちごとの戦略プラン立案とマネジメント

早稲田通り
沿道または周辺企業・商店まちづくり NPO
地主・利権者／行政／教育機関
- ○ シェアードスペースの整備・管理
- ○ 沿道建物のセットバック誘導
- ○ まちなみ美観に関するルール作り
- ○ 空地・空きテナントの活用
- ○ オープンカフェといったのシェアドスペース利用のマニュアル作成
- ○ 広場活用イベントの実施
- ○ モビリティスポットの設置
- ○ 沿道の緑化

大神宮通り
大神宮通り商店会まちづくり NPO 等
地主・利権者／行政
- ○ 大神宮への参道の景観作り
- ○ 一時駐車スペースの管理
- ○ 共同駐車場の整備
- ○ お祭りイベント等の実施
- ○ 既存のまちづくりを含めた包括的なルール作り
- ○ 沿道の建築用途規制
  商業店舗の誘致

学びのみち
行政／教育関連企業 ―サポート→ 教育機関 ←協働→ 教育機関
- ○ 学生のたまり場や休憩スペース創出
- ○ 縦割り学習、学校を横断する学習プログラムの実施
- ○ 塀の一部開放化や沿道と一体的につながる門づくり

文化のみち
行政／地主・利権者 ―誘致→ 新規居住者／新規出店者
- ○ 区役所富士見出張所の建て替えとコミュニティガーデンの整備・管理
- ○ 既存駐車場のグリーンパーキング化・運営
- ○ コミュニティ住宅の建設と 1F 部を交流スペースとして解放、運営
- ○ 既存ビルのリノベーションと店舗・SOHO 誘致

■ 領域を横断したまちづくりの実現

各みちのマネジメント組織に加え、地域のステークホルダー、地域住民、コミュニティ組織、NPO などの住民組織や、行政、専門家などが連携しながら、主体的にまちづくりを実行していく体制をつくり、広域的な整備の調整やまちづくりを実行していく。

PROJECT 003：水辺＋緑道の有効活用による北の丸公園周辺のゲート性・回遊性づくり

北の丸公園外周から公園内部への誘引力向上と外周部分の歩行者空間の質の向上によって観光客や日常的な周辺利用者にとっての魅力を高めることを目的とした施策を展開する。以下の二つの方針で、公園外周部分の外側と内側の関係を再構築していく。

■ 北の丸公園周辺整備のための二つの方針

現在北の丸公園の裏側のようになっている公園の南側外周部分における新しいゲートとしてふさわしい、既存資源の魅力がより外部に伝わるようなオープンスペース整備

ゲートを結ぶ外周部分において、よりスムーズに移動しながら沿道の魅力を体験し感じられる、楽しく歩ける歩行者空間を形成するための各種施策

親水デッキの整備
内濠により近づくことのできる親水デッキを整備する。整備の際は隣接する歩行者空間との一体性や見え方などの関係性も設計する。

植栽の再配置
樹木や植栽帯を再配置することで千鳥ヶ淵緑道と対面する資源へのアクセスポイントを整備し、地域の魅力の再発見を促す。

歴史的建築物の再活用
建替えや移転といった歴史的資源の転機を捉え、公園外周からアクセスしやすく歩行者空間を彩るような形態・管理を再検討する。

スムーズな動線づくり
公園外周の複雑な動線を解消しながら、常に水や緑、歴史的資源等の魅力を感じて外周を歩くことができる歩行者空間を整備する。

■ 北の丸公園の新しいゲートとなる”カオ”づくり

北の丸公園南側と外部の主要な動線との結節点に、公園の新しいカオとなるオープンスペースを整備する。オープンスペースでのアクティビティが背後の北の丸公園の魅力を予感させるよう整備することで公園内部へのアクセスを誘発する。“カオ”は内堀沿いの歩行者空間によって連続し、北の丸公園内部を含めて回遊性を高めていく。

■ 北の丸公園周辺整備のための二つの方針

また、北の丸公園周辺の整備のために千代田区と NPO 東京セントラルパークの連携を基点として各関係団体と調整し、各事業を包括的に進行していく。

北の丸公園周辺まちづくり検討会

- 千代田区 ←各事業のコンサルティング― NPO 東京セントラルパーク
- 環境省（北の丸公園敷地内／戦没者墓苑／工芸館）：デッキやスロープの新設、墓苑入口の再整備、工芸館移転後の管理について調整
- 千代田区観光協会（千鳥ヶ淵緑道ボート乗り場）：新設デッキの、接続・管理要請
- さくらサポーター（千鳥ヶ淵緑道）：植栽再配置の協力要請
- 一般社団法人国立美術館（国立近代美術館）：近代美術館前空間の再整備について調整
- 財団法人日本遺族会（昭和館）：屋外デッキの改修について調整
- 九段会館及び同敷地に関する検討委員会（九段会館）：建替え後の牛ヶ淵新設デッキへの接続を要請・調整
- 牛ヶ淵・千鳥ヶ淵緑道沿い建築物所有者（各建築物・敷地）：隣接する歩行者空間との関係をつくる形態や用途について誘導・調整